

小野實一郎 おのの じゅういちろう 新聞記者、俳人。明治二十一年七月、山口縣阿蘇郡生れ、昭和十八年二月一日歿（六八一・九四三）。號有香、蕪史、蕪子、夢山莊主人、夢中人等。小學校教員を経て朝鮮に渡り、新聞記者。のち東京日日新聞入社、社會部長などを務め、二十餘年勤続。昭和九年日本放送協會に入り文藝部長等歴任。傍う俳人としても活動、大正八年俳誌『草汁』を、昭和四年『鶴頭陣』を創刊主宰。十五年日本俳句作家協會常任理事。また陶器の造詣深く、昭和六年創刊の『茶碗の』に關與。作家蕪郁、郎の筆名に當る。

著書『知られたる秋田』（小野蕪子名、合著、明治四十一年十一月一日龍澤武編刊）、『溝』（大正元年十月十五日春陽堂「現代文藝叢書」）、室井多々子著『嫁ぐ娘へ』（編、大正四年七月五日有文堂書店）、『女十篇・戀十篇』（大正四年十月五日民聲社）、『萬龍未來記』（合著・野元北馬編、大正五年十一月一日須原啓興社）、『洋行茶話』（二版・大正九年八月十一日正報社）、『澄宮殿下御作童謡集』（編著、大正十一年一月十五日大坂東京毎日新聞社）、『陶器を試みる人へ』（毎日新聞社）

（大正十四年一月二十五日中央美術社）、『奥村五百子』（昭和五年五月二十日先進社）、句集『塔』（小野蕪子名、選、昭和八年九月一日鶴頭陣社）、『佛魔抄』（昭和十年十一月十七日双雅房）、『きぬいこ』（合著・上田保治編、昭和十四年一月二十日京都・キヌの編輯所）、『戦争と梅十』（昭和十八年二月二十五日寶雲舎）、句集『雲煙は養』



(昭和十六年二月二十日寶雲舎)、 『茶の心隨筆』 (昭和十六年八月二十五日富士書店)、 『神像』 (昭和十七年七月二十五日寶雲舎)、 『諸  
・大隅急二  
辻永編、昭和十七年十一月十五日春鳥會) 等。

消覽書』 (昭和十七年十一月一日寶雲舎)、 『畫人岡田二郎助』 (今春